

第43回 市民医学講座

おなかのがんと検診

～胃がん・大腸がん・肝臓がんの早期発見のために～

岩渕胃腸科内科クリニック 院長 岩 渕 利 光



【がん検診の目的と意義】

がん検診とは、症状が出る前にがんや前がん病変を発見するための検査です。がんは初期の段階では自覚症状がほとんどないことが多く、症状が現れた時点ではすでに進行している場合も少なくありません。そのため、症状がなくても定期的に検診を受けることが重要です。早期に発見されたがんは、内視鏡治療など体への負担が少ない治療で治癒が期待でき、生活の質を保ったまま社会復帰できる可能性が高くなります。また、がん検診を受けることにより、自身の健康状態を客観的に把握でき、生活習慣の改善や将来の病気予防につなげることができます。

【がん検診の社会的意義】

がん検診は個人の健康を守るだけでなく、社会全体にも大きな意義があります。がんを早期に発見し治療することで、医療費の増大を抑え、長期の入院や介護が必要となるリスクを減らすことができます。また、働き盛りの世代が健康を保つことは、家庭や地域社会、職場全体の安心にもつながります。

【胃炎とピロリ菌、胃がん】

ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）は胃の粘膜に生息する細菌で、慢性胃炎の主な原因です。多くの場合、幼少期に感染し、自然に排除されることはほとんどありません（図1）。感染が長期間続くと、胃粘膜の炎症が慢性化し、萎縮性胃炎や腸上皮化生といった前がん状態へと進行します。このような変化を背景に、一部の人で胃がんが発生します。ピロリ菌の持続感染は、胃がん発症における最大の危険因子とされています。



図1

【ピロリ菌除菌治療の効果】

ピロリ菌の除菌治療は、抗菌薬と胃酸分泌抑制薬を用いて行われます。除菌が成功すると胃粘膜の炎症進行が抑えられ、胃癌発生リスクが有意に低下することが多くの研究で示されています（図2）。日本では除菌治療の普及に伴い、胃癌による死亡者数は減少傾向を示しています（図3）。しかし、除菌後も胃粘膜の萎縮が残る場合があります、胃癌のリスクが完全に消失するわけではありません。そのため、除菌後も定期的な胃内視鏡検査を継続することが重要です。

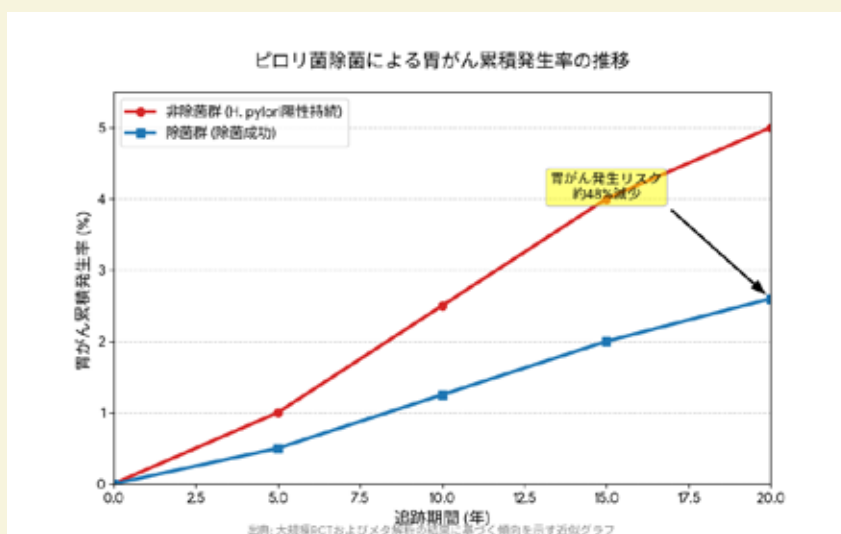


図2

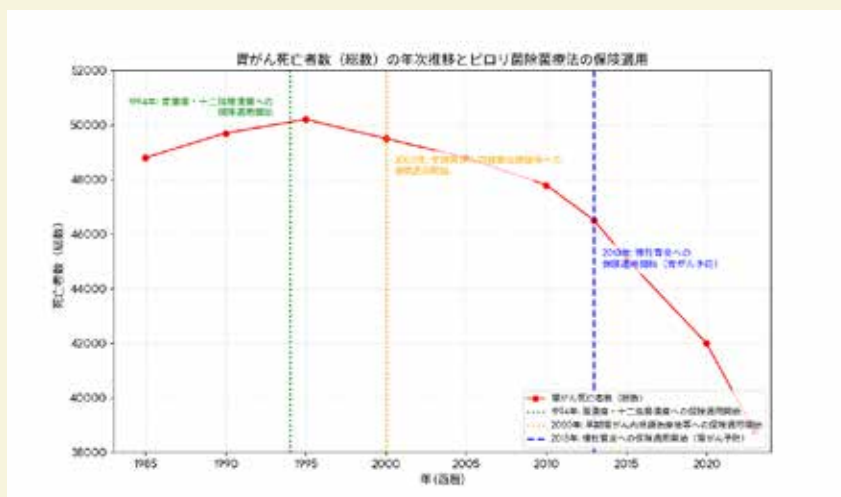


図3

【胃癌検診の結果の見方】

胃癌検診の結果は、「異常なし」「要経過観察」「要精密検査」に分類されます。異常がないと判定された場合でも、定期的な検診を続けることが大切です。萎縮性胃炎や腸上皮化生が指摘された場合は胃癌のリスクが高いため、年1回程度の胃内視鏡検査が推奨されます。要精密検査と判定された場合には、放置せず速やかに医療機関を受診しましょう。

【大腸がんとは】

大腸がんは大腸の粘膜から発生するがんで、40歳代から増加し、60歳代以降に多くみられます。日本では罹患数が非常に多く、また他の主要先進国と比べて検診受診率が低いいため死亡原因としても重要な位置を占めています（図4、図5）。大腸がんの多くは良性のポリープが時間をかけてがん化することで発生しますが、正常な粘膜から直接がんが生じる場合もあります。



図4

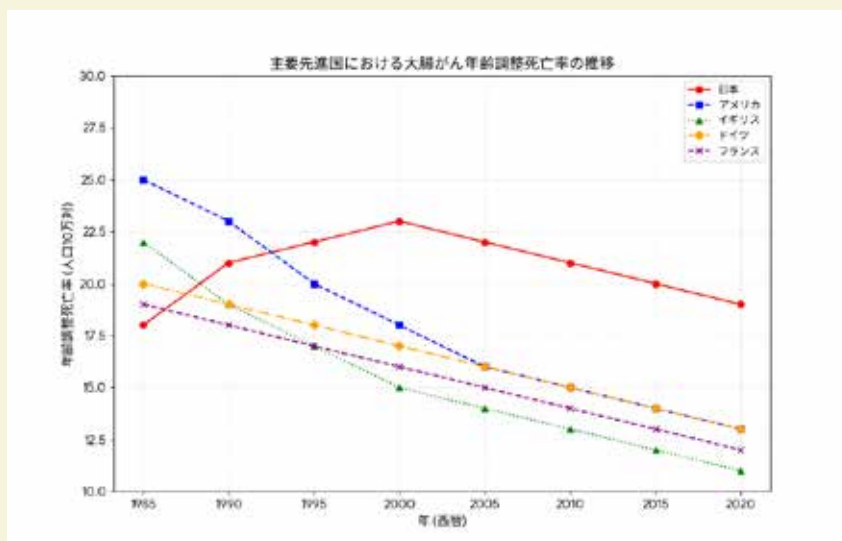


図5

【大腸がんの症状と注意点】

大腸がんの初期にはほとんど自覚症状がありません。進行すると、血便、便秘や下痢などの便通異常、腹痛、体重減少などが現れることがありますが、がんの部位によって症状の現れ方は異なります。特に肛門から遠い部位にできたがんでは症状が出にくく、発見が遅れることがあります。

【大腸がんの早期発見と予防】

大腸がんの早期発見には、年1回の便潜血検査が有効です。便潜血検査で陽性となった場合は、必ず大腸内視鏡検査を受けることが重要です。さらに、数年に1回の大腸内視鏡検査によってポリープを切除することで、大腸がんの発生や死亡率を大きく低下させることができます(図6)。腫瘍マーカー検査のみで安心せず、内視鏡検査を適切に受けることが大切です。

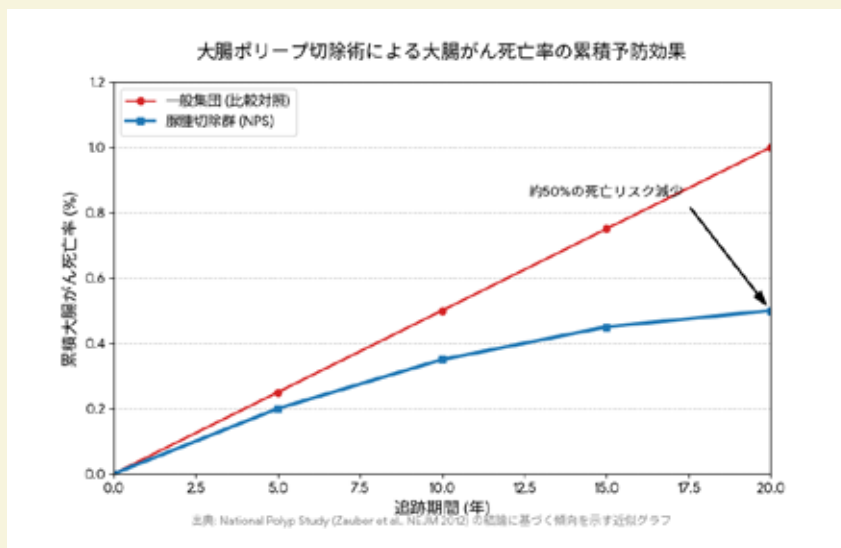


図6

【肝炎ウイルス検診の重要性】

B型肝炎ウイルスおよびC型肝炎ウイルスは、感染しても自覚症状がないまま慢性化することがあります。慢性肝炎が長期間続くと、肝硬変や肝がんへ進行する可能性があります。検査は血液検査で簡単に行うことができ、早期に感染を発見することが可能です。肝炎ウイルス検診は40歳以上で過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方が対象です。

【肝炎ウイルス治療の進歩】

現在、B型肝炎、C型肝炎ともに治療法が大きく進歩しています。特にC型肝炎は内服薬による治療で高い治癒率が得られ、多くの場合、完治が期待できます。B型肝炎においても、適切な治療と経過観察により、肝硬変や肝がんへの進行を防ぐことが可能です。

【まとめ】

がんは長い時間をかけて進行する病気です。症状がないからといって安心せず、定期的にかん検診を受けることが大切です。胃がん、大腸がん、肝臓がんはいずれも早期発見・早期治療により予後が大きく改善します。がん検診は、現在の健康を守り、将来の命を守るための第一歩です。体調に不安がある場合は、検診を待たずに医療機関へ相談しましょう。